

## Y11b 「重力レンズで見たあなた」:第6回「こどものためのジオ・カーニバル」 活動報告

渡会兼也、西山晋史、川田明寛、福江純(大阪教育大教育)、米原厚憲(東大理)

我々は、2005年11月5-6日に大阪市立科学館で開催された第6回「こどものためのジオ・カーニバル」に重力レンズ現象を扱った出展を行ったのでその報告する。この企画は、21世紀の地学教育を考える大阪フォーラムの主催で、将来を担う“こども”に実験や展示を通じて地学に関心を持ってもらうと同時に、現象を科学する姿勢を育成することが目的である。

我々のグループは、自分の姿を“重力レンズ”で撮れたらおもしろそうやな、という単純な動機からスタートし、最終的には、画像を通じてこどもに宇宙の中での重力レンズ現象を知り、その面白さを感じてほしい、という目論見で出展した。実際のブースでは1. デジカメでこどもの写真を撮り、2. その画像を「重力レンズシュミレーター (Ver 1.30)」を使って、こどもと一緒に加工、3. 画像を出力し、プレゼントした。ブースには、A0サイズのポスターも用意し、重力レンズ現象の簡単なイントロダクションや実際の観測画像の紹介を行った。

重力レンズを受けた写真は予想以上にこどもに人気があり、2日間で印刷したL判は合計150枚を超え、ブースは順番待ちも出るほど大盛況だった。実際のこどもの反応は、歪んだ画像ができること自体に興味があり、「なぜ、こんな像になるのか?」という疑問を持たせるレベルにまで達しなかった。しかし、「なぜ光が曲がるのか?」「宇宙にこんな現象があるとは驚いた!」という声も多く、持ち帰った画像を家庭で説明する、という親子もいた。

本講演では、活動報告だけでなく、重力レンズ現象を教材として使う際の注意事項についても述べる。